

ゆうき・いん・いん

令和2年6月12日発行

家族で読もう 「カミナリだ、にげろ！」特集



カミナリっ子、カミナリっ子、ゴロゴロ、ゴロゴロ。

ケース① あれ!ゴロゴロ鳴った?

雷鳴が聞こえる範囲は 15 キロくらいで、雷雲は直径が 20 キロほどのケースが多いといえます。つまり雷鳴が聞こえるときはすでに雷雲の下にいる可能性があり、いつ落ちてもおかしくないという状況です。

6月6日の土曜日の午後は雷雨となり、激しく雷が鳴り、かなりの雨も降りました。1学期が延長されて8月上旬まで登校となれば、児童の下校中に雷雨に見舞われることも予想されます。雷に注意をすることも大切ですが、東藤沢地区は不老川や川に伴う水路などが多く、水の事故にも注意を払って下校しなければいけません。在校中に雷雨が発生すれば学校にとどませますが、下校中に「ゴロゴロ」聞こえたら早く家に向かうのが一番です。下校するとき、おしゃべりに夢中になったり、寄り道をしたり、お友達の家の前でゲームなどをしたりして遊んでは危ないですよ。

鉄則1 遠くでゴロゴロなったら早く家に帰る。(建物の中へ)

ケース② ん? 急に涼しい風が吹いてきたぞ。



5年生の国語の教材で「天気を予想する(武田康男さん)」という説明文があります。武田さんは説明文の中で「科学技術が進歩し、国際的な協力が進めば、天気予報は百パーセント的中するようになるのでしょうか。」という問いに対して「難しい。」とお答えです。そこに住んでいる人が空を見上げ風を感じて変化を察することも重要だとおっしゃっています。地元藤沢に住んでいる東小の先生が感じる雷雨の兆候です。

鉄則2 「急にひんやりとした風がふいてきた。空が灰色。」カミナリ様ご登場の合図かも。やはり、早く帰る。

ケース③ 雷の光(稲光)が見えてすぐに『ゴロゴロ』が聞こえたぞ。

一気に地上に到達するかのような稲光。実は違います。一発目の電光は雲の一番下からわずか数十メートル。その後、同じ道で電光を繰り返して地上に届き、また雲に戻る。その間わずか100分の1秒。それを10分の1秒の間に何回も繰り返す速さは、人間にはかないません。

100メートル世界記録<音の速さ<光の速さ

光が先に見えて音が後から聞こえるカミナリですが光った瞬間に音が聞こえるとカミナリ様はみなさんの頭の上。非常に危険です。



この間僅か100分の1秒

鉄則3 光ってすぐに音がしたら、お店や駅、公民館、学校などのたてもものに、逃げよう。

【保護者の皆様へ】カミナリ様という言葉を使っていますが、主に発達した積乱雲によって引き起こさせる雷雨です。空気の上昇による熱雷、暖かい空気の潜り込む冷たい空気によって引き起こされる界雷、低気圧や台風などが原因の渦雷等が原因であって、雲の上で太鼓をたたく鬼がいるわけではありません。鬼は架空の化身ですが子供に注意喚起をするための工夫なのでしょう。お子さんの学齢によって説明を加えてください。

一度、下校路をお子さんと一緒に歩きながら避難場所や危険個所を確認しておきましょう。「スーパーマーケット」「コンビニ」「ファミレス」「行きつけのお店や病院」「藤沢駅」「こども110番の家」「公民館」「学校」などの商業施設や公共施設等、頼れる場所を確認しておきましょう。

雨をよけるために木の下に隠れるのは危険です。木は高いので雷が落ちやすいのですが電流を通しにくいので、近くにいる人の方を電流が流れてしまいます。避難場所が見つからない場合はしゃがんで頭を低くし、耳をふさいで雷が過ぎるのを待つというのがリスクを低くする対処法です。

備えあれば憂いなし、もちろん元氣百倍、勇氣凛々。

【参考資料 : <改訂版> NHK 気象ハンドブック (NHK 放送文化研究所編)】